

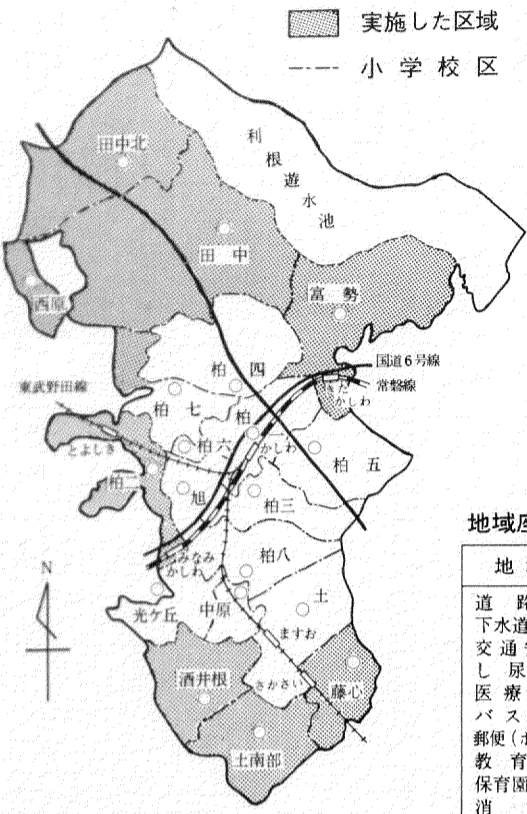
わたしたちは、豊かな緑と水を守り、潤いのある住みよい柏をつくるために、この憲章を定めます。

1. たがいに話し合って、心のかような明るい柏をつくりましょう。
1. 老人を敬い子どもを愛する、あたたかい柏をつくりましょう。
1. 環境をととのえ、安全できれいなまち・柏をつくりましょう。
1. 教育を重んじ、健康で、文化の薫り高い柏をつくりましょう。
1. 国際理解を深め、平和な柏をつくりましょう。

人のうごき 203,425人 (前月より+546) 58,309戸 (前月より+181) (50.10.31現在)

発行/柏市役所 柏市柏5丁目10番1号 編集/市長公室広報広聴課 毎月1日15日発行 TEL 67-1111内線223

### この区域で行いました



# 明確にされた「郊外」の要望

## 地域座談会終わる

## 福祉より環境整備の声

地域座談会と市民意識調査の要望を対比

地域座談会	順位	昭和49年度市民意識調査
道路の整備	1	下水道・排水溝の整備
下水道・排水溝の整備	2	保健衛生・医療の充実
交通安全対策	3	道路の整備
交通安全対策	4	自然環境の整備
医療施設	5	交通安全対策
バス路線の充実	6	児童施設
郵便(ポスト)の速達・遅配	7	学童教育
教育施設	8	環境衛生
保育園・幼稚園の設置	9	消費生活問題
消防対策	10	住宅問題

昭和四十八年一月から、柏市が柏警察署、保健所、郵便局の協力を得て行ったきた地域住民との対話集会「地域座談会」は、去る十一月十一日の船戸地区(通称十六回目)を最後に、ひとまず幕をおろすことになりました。この座談会では、東京近郊の中堅都市として「急成長」をとげる柏市にあって、特に中心部から遠い地区の開発が著しいことから、こうした地区の地域要望を対話を通じてあきらかにし、中心部との「格差」や「ひずみ」を探り、調和ある柏市造りの参考資料にしようという意図で始められたものです。



都市化のひずみが船戸地区に集中している、と訴える住民

戸会 工業団地の公害などただす 最終にふさわしい活発な意見

座談会は、北部高田梅林での一回目をかわきりに、豊四季駅周辺、南柏駅周辺、土南部各町会、富勢地区と回り、今回の北部船戸で、市の郊外を一周したことになります。

座談会は通算で十六回、回った町会は六十七町会、面積およそ三十六万平方キロ、対象市民六万人、直接出席した市民は五百人をおよそえ、意見要望は二百九十件で、各項目別の内訳は別表のとおりとなりました。

要望を具体的にみると、道路や下水道、排水の整備、医療の充実、交番の設置など、狭義の福祉施策よりも生活基盤整備に強い要望が表われていることがわかります。

要望を具体的にみると、道路や下水道、排水の整備、医療の充実、交番の設置など、狭義の福祉施策よりも生活基盤整備に強い要望が表われていることがわかります。

しかもこれらの要望は、順位に若干のちがいはあるものの、毎年実施している市民意識調査の結果にも一致するというのが裏付けられました。つまり、新しく市民として郊外に移り住んだ人たちは、都市としての最低条件、「環境の整備」が急務だと訴えている

また、これら要望の中には交通、郵便、警察、医療という、市行政単独では解決がたいものもあり、関係官庁の連絡協調、広域体制の取り組み強化などを「示唆」しているように思われます。

要望を地域別にみると、十回二

知事と県民との対話「知事と語る」県民懇談会が、十一月二十日午後一時三十分から柏市民文化会館で開かれました。

この催しは、川上知事が今春四月就任以来香取郡に次いで二回目。対象地区は、柏、野田、我孫子、沼南、関宿。県民代表十八人と関係市町長、議長など四十人が出席。懇談会は、「人口急増地域における住みよい社会づくり」をメインテーマに市民生活、教育、産業、手賀沼浄化の問題などに進められました。

柏市からは、座長に熊谷正弘さんが選ばれ、遠藤和子さん「救急医療の充実」、角田武司さん「障害者施設と養護学校の建設」、安芸子さん「消費生活センターの

人口急増地域の悩みアピール 知事との対話集会で

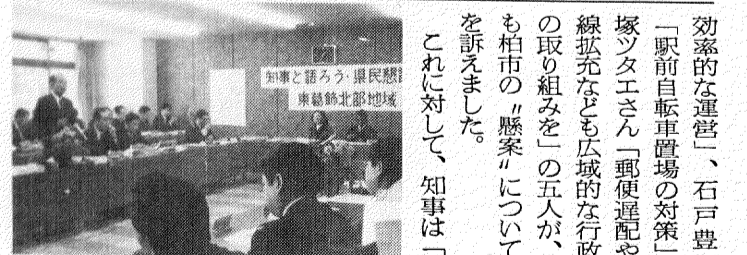
効率的な運営、石戸豊作さん「駅前自転車置き場の対策」、小野塚タツエさん「郵便配達やバス路線拡充なども広域的な行政として

の取り組みを」の五人が、いずれも柏市の「懸案」についての実情を訴えました。

これに対して、知事は「医療体制

地区(上水道の敷設、常磐高速道の建設)、道井地区(保育園、出張所の設置)、花野井・若柴地区(北柏団地建設に係る問題)、大室地区(農業の振興)などのように、その地域特有の問題もあらためてクローズアップされ、市の総合計画立案とのかね合いに大きな影響を与えています。

今後、地域座談会での意見や要望を冊子にまとめ、市民意識調査の結果と照らし合わせながら、分析や検討を加え、行政に役立つ資料を作る計画です。また座談会についても、今後どのような方法で行うかを検討してゆく考えです。



県民懇談会で、あいさつする川上知事

は検出されましたが、カドミウムの反応はでていません。

▼十回二工業団地からの公害とその対策は——排水については、団地内に終末処理場もあり、問題はありません。しかし、大気汚染と騒音は発生しています。公害を出している企業には県と協力し継続的に調査指導してまいります。

▼常磐高速道が建設された場合の騒音と排気ガス、周辺排水路の対策は——道路公団では、両側に緑樹帯を設けるので万全といっています。市としては疑問を感じています。現在、文書で回答を求め準備を進め、この回答をもとに対策をたててまいります。また同公団では、用排水については二本の水系を調査し、どこに流すかを検討しています。

その他「連達区域に」、「東武バスの路線延長と増発を」、「路上駐車取り締まりを」、「柏寿荘の祝日や日曜日の開館を」など、二十五件にのぼる意見や要望が出されました。

制の強化は県も重点をおいており、今後、病院や救急医療センターを組織的につくりたい。

障害者施設は、県としても計画を持っており、各地域に分散し、地域住民のボランティア活動による協力を得て運営をしていきたい。

生活センターや自転車置き場、また一地方自治体で解決できないものは、県と市町が協力し積極的に取り組むべき」と答えました。

このほか、「県立高校の建設」(山本和男さん、野田市)、「手賀沼浄化対策」(野田引一さん、我孫子市)については、「高校建設は、できれば五十二年度に関校したいと考えています。また手賀沼浄化は、当地域だけでなく県としても重要課題です。下水道と北千葉導水路の早期完成に努力したい」と答えたと、「人口増加の著しい東葛飾地区などでこれからの機会あるごとに県民の生の声を聞いていきたい」と結びました。

は検出されましたが、カドミウムの反応はでていません。

▼十回二工業団地からの公害とその対策は——排水については、団地内に終末処理場もあり、問題はありません。しかし、大気汚染と騒音は発生しています。公害を出している企業には県と協力し継続的に調査指導してまいります。

▼常磐高速道が建設された場合の騒音と排気ガス、周辺排水路の対策は——道路公団では、両側に緑樹帯を設けるので万全といっています。市としては疑問を感じています。現在、文書で回答を求め準備を進め、この回答をもとに対策をたててまいります。また同公団では、用排水については二本の水系を調査し、どこに流すかを検討しています。

その他「連達区域に」、「東武バスの路線延長と増発を」、「路上駐車取り締まりを」、「柏寿荘の祝日や日曜日の開館を」など、二十五件にのぼる意見や要望が出されました。

# 人口203,063人でした 国勢調査概要まとまる

## 一世帯平均三・五人

十月一日に行われた「第十二回国勢調査」による、柏市の人口と世帯の概数が、このほどまとまりました。これによると、人口は二十万三千六百三十三人(男十万三千五百六十四人・女九万九千四百九十九人)、世帯数は、五万七千四百三十三世帯となっています。

五年前の国勢調査(昭和四十五年)の時は、人口が十五万六千三百十五人(男七万六千五百六十二人・女七万四千七百三十三人)、世帯数は四万二千六百六十七世帯(四十三%増)も増加したことになります。また、一世帯当たりの人口は、三・五人、人口密度は全市平均で二千七百八十一・六人(一平方キロ当たり)人口の規模は県下第五位この結果、県内における柏市の

## 正確だった柏の推計人口

一方、住民基本台帳による、柏市の人口(十月一日現在)は、二十万五千二百七十七人で、国勢調査より、千五百三十六人少なく推計されています。これは、実際に住んでいるのに住民登録をしていない人がいるためで、大都市近郊など、人口の増加が著しいところによく見られる現象です。

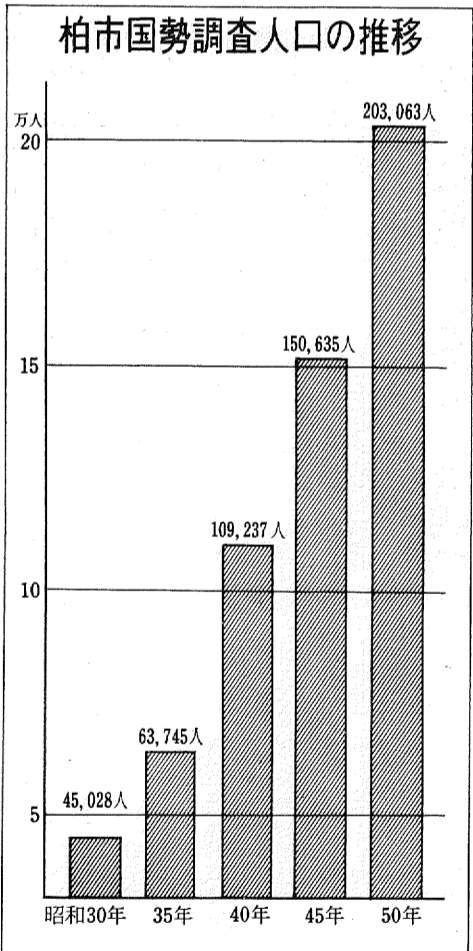
また、世帯数は、六万二千八百七十二世帯と、国勢調査より五千四百三十九世帯も多くなっています。これは世帯数のとらえかたが異なるため、数字に大きな差がでてくるのです。つまり、国勢

調査では会社の寮などは、全体を一世帯として数えますが、住民基本台帳では、一人一人を一世帯としてとらえるため、両者の間に大きな違いが生じてしまうわけですから、国勢調査をもとにして

その月に届け出された、出生数、死亡数、市外からの転入・市外への転出数を前月の数字に加減して毎月の人口数と世帯数を推計しようとしたのが「推計人口」です。

この方法は、全国の市町村で行われており、もっとも実在に近い人口とされています。

市役所の掲示板や「広報かしわ」などで発表している柏の人口も、この推計人口で、本市でも、毎月この人口を推計しています。



## 速達拡大を強く訴える

### 当局へ要望書提出

市と住民との対話集会「地域座談会」などで、住民から強い要望として出されている速達区域をひろげる問題について、去る十一月十八日、柏市役所経済部萩原部長

坂巻商工課長が関東郵政局へ出向き、柏市からの要望書を提出しました。

席上、萩原部長は、昭和二十九年柏市制施行時からの人口の伸びに努めてゆくと述べています。しかし、まだ名前を書かなかったために、盗まれたり、乗り捨てられて迷子になっている自転車は、年間三百台もなっています。自転車は、名前を書くことによって盗まれないようになりますので、住所氏名をはっきりと記入しましょう。

## 空巣・ひったくりに注意を

### 年末年始に増える犯罪

### 1012日から防犯運動を実施

年の瀬のあたたかい時期がやってきました。例年、年末年始は気ぜわしくもくわわって、空巣やどろぼう、たかりなど各種の犯罪が増えます。

柏市防犯交通安全組合では、こうした時期を迎えて、これらの犯罪を未然に防ごうと、十二月十日から二十日まで、防犯指導員や柏警察署と協力して、防犯広報や夜警などを行い、総力をあげて年末年始の防犯運動を展開していくことにしています。

特に多発する、空巣やひったくり、自転車盗難の予防についてみてみましょう。

◇盗難の予防

▽どろぼうの侵入口が一番多いのは玄関。次いで窓や勝手口です。かぎをかけたからというだけでは安心できません。かぎのうちには、簡単にこわされて開けられてしまうものがありますので、一つのドアには二種類のかぎをつけて下さい。

▽夜間、外を閉める家の中を暗くしておく、どろぼうは近づきにくくなります。お休みになるときは、必ず部屋を暗くして下さい。

## 飲酒運転をなくそう

### 交通事故防止運動も展開

また、この防犯運動と同じ期間に、飲酒運転をなくし、交通事故から歩行者特に子ども、老人、及び身体障害者を守るため、県下いっせいに「年末年始の交通事故防止運動」が展開されます。

今年の重点目標は①飲酒運転の追放、②歩行者・自転車利用者の事故防止。

市でも、運動期間は、柏警察署柏市交通安全都市協議会、特殊防

### 柏警察署管内の刑法犯発生件数

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
凶悪犯	6	15	3	0	3	0	2	7	1	2	9	2	50
粗暴犯	11	8	15	7	9	9	3	21	9	8	22	24	146
窃盗	180	238	265	209	247	250	250	292	177	158	382	277	2,925
知能犯	2	8	9	10	6	18	2	5	5	2	9	1	77
風俗犯	1	0	2	2	4	2	1	0	0	2	0	2	16
その他	1	2	12	3	4	2	5	1	2	1	8	3	44
合計	201	271	306	231	273	281	263	326	194	173	430	309	3,258

## 知事も協力を約束

### 県民懇談会で答える

去る十一月二十日の柏市民文化会館での県民懇談会の席上、沼南町の荒木栄幸さん(主婦四十五歳)が、「沼南町に単独の郵便局の設置方と、柏市と同様問題の郵便事情の改善方を訴えたのに対し川上知事は「国の業務だが、側面的に協力してゆく」意向を明らかにしました。

## 秘書×7から



十一月七日 東葛中部地区総合開発事務組合議会に出席のため、沼南町役場へ。

十一月十一日 船戸・大青田・小青田ならびに山高野地区を対象とした地域座談会に出席。

十一月十三日 今日(叙職者として、天皇陛下に拝謁のため皇居へ行く)とあって、何となく緊張感。

十一月十七日 千葉県市長会主催の県幹部職員との市政懇談会に出席。席上、川上知事から「財政緊縮の折、県政への協力をよろしく」と挨拶。そのあと、各市長からも活発な意見が出され、特に柏市長からは、手賀沼浄化対策の促進と、教育施設の整備拡充について強く要望。

十一月二十日 市民文化会館で開催された「知事と語る」手賀沼対策について意見を交換。その後、市内南増尾に在任の大山六男氏が、千葉県青少年指導者海外派遣団の一員に選ばれ、十一月十八日

十二月十二日 手賀沼土地改良区理事長大須賀氏が来庁し、手賀沼対策について意見を交換。その後、市内南増尾に在任の大山六男氏が、千葉県青少年指導者海外派遣団の一員に選ばれ、十一月十八日

## 知市民相談

法律相談	1日 22日 10時~4時	8日 1時~4時
人権相談	15日 市民相談室	10時~3時 (人権擁護委員)
行政相談	25日 市民相談室	10時~3時 (行政相談委員)
交通相談	11日 24日 市役所地下和室	10時~3時 (県交通相談員)
移動少年相談	13日 土南部小学校	1時~5時 (児童相談所係員・市役所職員)
結婚相談	毎週日・水曜日	1時~3時 中央公民館
心配生活苦情相談	毎週水曜日	中央公民館 10時~3時
消費生活苦情相談	毎週月・木曜日	消費生活センター 10時~4時 (県消費生活苦情相談員)
家庭児童相談	毎週月曜~金曜日	9時~4時 土曜日 1時~12時 厚生課 (家庭児童相談員)



### お早めに申し込みを



「ハイ！足首をしっかりとまげて」とコーチを受けるビギナー（昨年度の市民スキーから）

「ウィンタースポーツの花」といわれるスキー種目を対象にした市民スキー教室が、今年も柏市の三泊四日、大人九千五百円、子ども八千五百円とたいへん安くなっています。申し込みはお早めにとぞ。

○とき 第一次 昭和五十一年一月二十四日(土)～二十七日(火) 第二次 二月十四日(土)～十七日(火) 一次・二次とも市役所前午前九時出発  
○宿泊 菅平かしわ荘  
○対象 市内に在住、在勤のかた  
○定員 一次・二次各八十名(申し込み順)  
○申し込み 十二月三日から申し込み金四千五百円を添えて、本人が直接教育委員会保健体育課、ヤザワスポーツ店(柏二丁目)、カノスポーツ店(ファミリーかしわ三階)のいずれかに申し込み下さい。なお、毎年行っている市民スキー大会は二月二十八日～三月一日に行われる予定です。詳しくは本紙一月十五日号でお知らせします。

### 点訳奉仕サークル結成

#### 光のない人に情報を

柏市に初めて市民による「点訳サークル」が結成されました。このサークルは、「いなほ会」(会員十四人、代表者加藤きみ子さん)と「藤心六八六一〇四」で、昨年十一月に開かれた市の主催の点訳講習会をきっかけとして集まった仲間が、その後も月一回の勉強会を開いて勉強を続けてきたもので、ちょうど二年目を迎えるにあたって、「今後は市内の目の不自由な人たちに少しでも役立てたい」と、市内には百二十人の目の不自由な人がいますが、会では、こうした人たちの要望によって、「童話」、「小説」、「詩集」、「広報かしわ」などを点訳していきたくと張りきっています。代表者の加藤さんは、点訳をこれから始めたい人や、一人で勉強している人が、市内にもまだまだ多くいると思います。私たちの趣旨に、ご賛同のかたは、ぜひ参加して下さい」と呼びかけています。サークルへのお問い合わせは、市役所福祉事務所(内線二二二)へ

新しい公職選挙法では、政治家や候補者など、政治や候補者は、選挙区内の人に寄付をすることが全面的に禁止されました。選挙に關係あるなにかかわらず次のような贈り物をすると法律違反となります。また、有権者も、政治家や候補者などにこのような寄付を求めるとはできません。

☆結婚式のときに、お祝いのお金や品物を贈ること  
☆開店祝いや落成式などのときに、花輪や香典を贈ること  
☆お葬式の際、香典や花輪、供物などを贈ること  
☆町内会や老人会などの集まりに、お金を寄付したり、食事やお酒を届けること  
☆お中元やお歳暮を贈ること

### 黒船渡来



「泰平のぬむりをさます正喜撰(じょうきせん) たった四はいで夜もねられず」  
嘉永六年(一八五三)六月三日、ペリーらのアメリカ艦隊が浦賀に来航した時の狂歌です。正喜撰とは上質の茶の名で、これを飲むと興奮して眠れないことから黒船、つまり蒸気船とかけたものですが、こっけいななかにも、当時の人々の驚きぶりがわかるようです。  
幕末期には日本各地に外国船が出没し、通商を迫りました。幕府は、その都度申し入れを拒否し、国策である鎖国を守り通したのです。  
黒船渡来以前、たび重なる異国船来航に対して、幕府は諸藩に備えを固めるよう達しを出していました。田中藩では船戸、藤心両役所結核の足輕の動員を中、南相馬等四十二万村に命令しました。この夫役は十日交替とし、また異人との交戦を想定して農民の武術のけいこや、藩士の砲術訓練などを船戸役所で行ったようです。  
黒船渡来の七日後、田中藩主本多紀伊守は幕府から江戸品川警備を命じられました。これに対し本多侯は、下総中相馬の村々から五十七人の農民を足輕として徴用しました。この任務が解かれたのは、黒船が帰った後の六月十六日でした。  
影響は水戸街道にも現われ、藩が動きたたけました。街道の往来は昼夜の別なく混雑し、それに伴う荷物の運搬にあたる助郷が不足はじまりました。助郷



点訳の練習に一段と熱が入る「いなほ会」の皆さん

ました。この結果、次のチームが受賞しました。  
優勝 豊町青年館、二位 中原青年館、三位 藤心第三青年館。  
「いなほ会」の皆さん、ご賛同のかたは、ぜひ参加して下さい」と呼びかけています。サークルへのお問い合わせは、市役所福祉事務所(内線二二二)へ

## お隣りさん

二十年間に五倍近くもふくれあがる人口。昨日までの田畑が住宅地へめぐるしく変わる風のような都市化の中で、しだいに片すみを追いやられていく農業。その農業に若いエネルギーを投ずる、これは市内の、一人の農村青年像のプロフィール。  
突然の父の死が、若者の未来を変えた。その日、昭和四十九年五月七日父の増田勇太郎さん(船戸九九四)は、バイクで病院へ行く途中、十六号国道の若葉交差点近くでトラックにはねられ即死。  
畑(一町)、田七十(七反)を耕作する増田家は、「少なくとも二百年は続いてきた百姓」。すぐさま親族会議を

「農業にかけるさ！」  
◇：都市化の中で新しい農業を模索◇  
船戸の増田青年

開いたが、長男は「おれは自分の道を選びたい」。世間でいう「跡目相続」も、農業に限ってはことさら深刻だ。  
「じいちゃん、ばあちゃんの手もよー心配してなあ。おやじが生きていたとき、ゆくゆくはおまえに頼むかしんねえ」と話したのを思い出して、今年度の米の取り入れは、三軒



協同で百五十万円のコンバイン(脱穀機)を購入、取り入れの省力化を図るとともに、「はじめて請負耕作をやった」。

「脱穀機」を購入、取り入れの省力化を図るとともに、「はじめて請負耕作をやった」。「機械に追われて金が困ったけど、手がなしいし、だれだって楽をしたい気持ちはある。かといって採算も考えねえなあ……、今のように野菜相場がよければ別

「豊町チームが優勝」  
青年館親善卓球大会  
去る十一月十六日、市と青年館運営連絡協議会の共催による「柏市青年館親善卓球大会」が勤労青少年ホームで開かれました。この大会は日ごろ青年館を利用して親睦を図るべく、今回初めて行われたもの。当日は、市内の各地区から十三チームが参加し、五人制のトーナメント方式による勝ちぬき戦により熱戦が繰り広げら

旬 間 交 通 事 故

50年11月1日～11月15日	市 内	1	31
	死者	1	18
	傷者	24	781
	計	600	

「いなほ会」の皆さん、ご賛同のかたは、ぜひ参加して下さい」と呼びかけています。サークルへのお問い合わせは、市役所福祉事務所(内線二二二)へ

